

日本幼兒飛行機獻納貯金の提唱

戦争は愈々苛烈になりました。敵の反抗も油断ならぬものがあります。戦線の將士は身を以て闘つてゐて下さる。銃後からの補給を何よりも待つてゐるのは飛行機です。此の決戦を有利に決するため一番緊急なものは飛行機です。

今や、その大切な飛行機の製作に、國を擧げての全力がつくされてゐます。幼兒達の心にもそのことが響いてゐませう。その心を實現させ具體化させるために、日本幼兒飛行機獻納貯金を提唱します。各園では既に實行されてゐるところも少なくありません。又明日から實行しようとしてゐられる園もありませう。

此の、全國の幼稚園の心を一つにまどめたい。その方法として、本會は各園からの、獻金の御寄託を受けて、幼兒達の總意を陸海軍に獻納表明するお取次ぎ役になりたいと思ひます。一人々々な幼稚園としてまどめ、園々が更に全國としてまどまることにより、軍用飛行機「日本幼兒號」が作られたらと切望します。それが出来なくとも、せめて一翼となり、機體一部となり、日本幼兒の一團の意氣を敵に見せてやりたいと希ふのであります。

御賛同を願ひます。

規定

- 一、各園で幼兒の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。
- 一、保護者、職員の方々の御参加も希望します。
- 一、各園名(所在地、代表者名も)を明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛)お送り下さい。振替口座(東京一七二六六)或は郵便爲替(書留郵便にて)いづれとも御便宜に任せますが、「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。
- 一、第一期へ切は昭和十九年二月末日とします。
- 一、全體をまどめて直ちに陸海軍に獻納します。
- 一、獻納には御寄託各園名を列記します。
- 一、別に受領證を差上げず、獻納完了と共に、本誌(昭和十九年四月號)に發表します。
- 一、一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の全額全部を獻納します。

昭和十八年十一月

日本幼稚園協會

(責任者 倉橋惣三)